

2. 家庭でクリスチャン教育を実施することには、意識的な決断が必要です。「……私と私の家とは、主に仕える」(ヨシユア 24・15)

3. 私たちは自分たちが「一人ではない」ことを知る必要があります。神が私たちと共におられるのです！ 主は「私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方」(エペソ 3・20)です。私たちは、自分の力で何とかしようとする罠に陥ってはいけません。神で自身が私たちを通して働いてくださることが必要です。「主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなしい……」(詩篇 127・1)

4. 教育は神とのパートナーシップの中で行われるものです。ルツ・ヴォーンが次のように語った通りです。「あなたは、鉄を成形したり、大理石を彫ったりしているわけではありません。宇宙の創造主と共に、人格を形成し、将来の人生を切り拓いていく作業に取り組んでいるのです」

5. 世の中の教育の定義に左右されるのはやめま



しょう。そうではなく、主の教育と訓戒によって育てていきましょう (エペソ 6・4)。

C S ルイスが述べました。「キリストを抜き去り、主を恐れない教育は、賢い悪魔をつくることになる」

皆さん、ぜひ、チア・コンベンション会場でお会いしましょう！

楽しく学習する ベバリー・ヒューブナー

神は、私たち人間が周りの世界に関心を持つように創造されました。子どもが、目の前のあらゆる事象を探ってみようとする姿を考えてみてください。若者というのは常に何かを知りたがり、大人が答えるのに飽き飽きするほど「なぜ？ どうして？」と質問攻めにするものです。そのような子どもたちの好奇心を、私たち大人はカリキュラムや教科書で抑えつけてしまい、長時間、机に縛り付けてはいないでしょうか。私たちホームスクーラーは、神が子どもたちに与えられた好奇心を存分に行使できるようにすべきではないか、と私は思うのです。

多くの人は、耳から聞いたことの 20%、目で



見たことの40%、実際に行ったことの40%を覚えているそうです。つまり、私たちの学習の8割は、見たり実行したりすることによって身につくというわけです。長い時間が掛かり、時には混乱を招きそうなプロジェクトに挑戦させるべき理由はそこにあります。たとえ、通常のカリキュラムを脇に置くことになっても、子どもたちが自分の興味や関心を追求する時間をぜひ与えてあげてくださったらと思います。

おそらく皆さんも、ある程度はそれを実行されていることでしょう。子どもが何かに興味を示したら、彼らの学習意欲を伸ばすためにその好奇心を大いに使うことが効果的であることを、私も様々な点で学ばされてきました。

我が家の息子は、幼い頃から何か一つのことにもものすごく集中するタイプで、興味を持ったことは熱烈に追求していました。その一つが地図を描くこと。彼は地図に興味を持ち、新しい地図を見つけると、すべての都市の街路図を研究していました。そうして、色とりどりのペンと定規を使って、都市の地図を描き始めるのです。遂には、交通の流れをどうすれば改善できるかを考え、道路を変更して描くようになりました。私たちは図書館から地図帳や道路地図を借りてきて、息子が興味を追求できるように励ましました。また、息子が遠征を計画するのを手伝い、ナビゲーター役を任せることもしました。彼は大人になった今でも、自分の興味を引く地図を探し続けています。現在はウィニペグという地域に住み、街中の隅々まで、一度も迷わずに運転しています。

娘は15歳の頃に、赤ちゃんや幼児に関心をもち始めました。そこで私たちは、彼女の興味に沿って、我が家のホームスクーリング・高校課程の単位取得を考えました。ある時には、幼児期の発達に関する講義も受講させたことがあります。教会では日曜学校の幼児クラスで教え、ハイチの孤児院で3カ月間、ボランティアもしました。娘は現在4人の子の母親です。子育てについて学んできた彼女は、その学びを自分の子育てにも大いに活かしています。

私は自宅で子どもたちを教え育てる、ホームスクーリングママでいることに心から喜びを感じ、

愛していました。それが正直な気持ちです。共に学んだ時間、共に探究した時間、子どもたちが新しい発見をするたびに目を輝かせる姿を見た瞬間、その積み重ねは、子育ての中でもハイライトでした。もちろん、毎日が素晴らしい発見の連続だったとは言いません。同じくらいか、それ以上に苦労した日々もありました。

けれども、本当に重要なことは、子どもたちと過ごす時間です。それも、神について分かち合い、神がお創りになったこの世界を共に味わい、賛美し、学びながら歩いていく時間なのだということを学ばされてきました。

子育てにおいては、よく「“質の高い時間”を過ごす」ということを耳にするとと思います。けれども私は、「どれだけ“多くの時間”を過ごすか」という量的な時間も、神は大切にされていると信じています。

私たち親は、神が子どもたちと一緒に過ごすようにと与えてくださった時間を、焦らず、リラックスして楽しむ必要があります。それは、神を愛し、周りの人々を愛することを子どもたちに教えていくことにもつながります。時には、多くのカリキュラムに圧倒されてしまうこともあるでしょう。けれども、子育ての最終的な目標は、神に仕え、神に従う人間になるように育てていくこと——そのことを、ぜひ心に留め、忘れないでいただければと心から願っています。

